

# 学校関係者評価における意見と今後の取組

## 全体を通しての意見・感想

### ○読書について

関：読書意欲の低下や読書をする時間の二極化がみられると報告にあった。メディアとの関係が言われているが、児童が家庭で過ごす中で、保護者など大人がスマートフォンに親しんでいる時間も長いことが予想され、家庭での読書時間の確保も家庭の協力なしではできないところがあるのではないかと。読書は、人生の糧になるものであるもので、その良さや大切さを伝えていく必要がある。学校は、読み聞かせをはじめ、子どもたちが本に興味をもつような仕掛けをいろいろしていくことが大事ではないかと。

学：コロナ禍により、それまで行われていたボランティアによる読み聞かせが途絶え、再開することができていないので今後考えていきたい。しかし、昨年まで3年間行えていなかった、図書委員がクラスを回って読み聞かせをする活動は、今年度再開することができ、子供たちもとても喜んでいる。読書の魅力を様々な形で伝えるとともに、今後も家庭と連携し家庭での読書の時間も増やせるようにしていきたい。

### ○不登校について

関：学校に登校しにくい児童については、情報共有、連携を大事にして、気配りをしながら、気長に取り組んでいくことが大事ではないかと。ひよっとしたきっかけで来れるようになることもあると思う。

学：担任を通して、はたらきかけをしている。スクールカウンセラーとも連携しながら取り組んでいる。

### ○自尊感情や自己有用感について

関：自尊感情や自己有用感を育てることはとても大切なことだと思う。小学校でそういった感情を育てようとしていることはとてもよいことだと感じている。小学校のまわりにあるもの、地域のもものは、全てオンリーワンなものなので、6年間の教育の中で知っておいてほしい。将来、この地を離れることになっても、生まれ育ったところのこと、オンリーワンなことを誇りに思い、説明できるということは、生きていくうえで大事なことだと思う。そういったことが、自尊感情であったり自己有用感につながっていくのではないだろうか。また、そこで育った「自分にはこれがある」「あなたにはこれがある」といったものが、お互いの足りないものを補い合っていけるような良好な人間関係をつくるもととなるのではないかと。

学：自分の能力や可能性にチャレンジする機会や自分に自信を持てるものを見つけられる活動や体験を今後も積極的に取り入れていきたい。また、社会科や生活科、総合的な学習の時間には、地域の方々に大変お世話になり、地域のことを学ばせていただいている。地域に出向くときには、安全面でのご支援もいただきとても感謝している。今後も、自分の住んでいる地域のことを調べる、知る学習を取り入れていきたいと考えているので、ご協力をよろしくお願ひしたい。

### ○働き方改革について

関：教職員も非常に忙しいと思うが、働き方改革は進んでいるのか。

学：とても進んでいるというわけではないが、声をかけあって改善できるように取り組んでいる。先生方同士もよく話をし、連携をとりながら校務を進めることができています。

### ○GIGA スクールについて

関：GIGA スクールも進めていくのは大変だと思うが、どのようになっているのか。

学：授業でのタブレット活用も工夫しながら行っている。プログラミング教育も ICT 支援員の協力を得ながら進めることができており、子どもたちも楽しみながら取り組むことができています。

**\*アンケート結果や評議員会での貴重なご意見を、今後の学校教育にいかしていきます。**